

ひな通信



〒513-0012
三重県鈴鹿市石薬師町3151-27
とりの巣工房
みなよい こどもトイ
TEL・FAX 059-374-5101

2024年初夏・特別号 予約制のおもちゃ屋通信

コロナで世界の日常は一変させられ、出産という命がけで乗り越えて迎える感動的“至福のシーン”のはずが、立ち合いが制限されたり、感染そのものへの不安に襲われたり、生まれた後の家族の面会も叶えられないようなしんどさを伴うここ数年です。そんな中、今日も子育てをしているママ・パパにはホントに脱帽と感謝です・・・❤

(右写真は生後2か月。バスタオルを丸めて脇に入れると重力に打ち勝って頭を上げ、前を見やすい)



オンラインでの情報など、コロナ禍に発展して助かったものもあるけれど

「子育て」はその画面越しでは伝わりづらい独特の難しさがあります。

そもそも当たり前すぎることほど、みんなが何となくやってきたから気づきにくいことがいっぱい。

どこにでも当たり前で赤ちゃんをあやしている姿があれば

「ああ、あんな感じであやすのね」と真似するモデルが居るのですが・・・人混みを避ける必要があるから、SNSなどの画面からの情報を頼りにして当然ですよ！

気をつけたい点は・・・画面に映し出されるのは

「他人に見せて問題ない部分」だけだということです。

長所と短所と両方をリサーチして、鵜呑みにしないなど

情報との付き合いに慣れている方も多のですが、

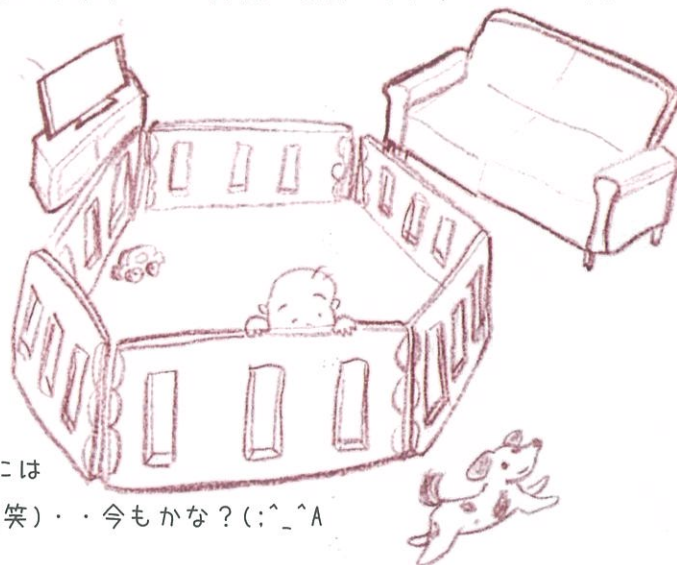
それでもスポンサーも絡んで見えにくいところで、

いわゆる【便利グッズ】の宣伝的な内容や

早期教育的情報が洪水レベルで流れてきます。

かくいう私も「人間工学に基づいた」という宣伝文句などには

「へえ～」と、あまり根拠のない安心感を抱いていました(笑)・・・今もかな?(;^_^A



ただね・・・コロナ禍から一気に「子どもたちの育ちに不安を感じる」・・・(・__・;)と、保育教育現場の先生や、助産師さん、保健師さんたちの声が聞こえてきています。

便利グッズに絡むものも多いようです。スマホでの子守りも含まれますが、上の絵はママたちの話から見えるちょっと気になる珍しいわけではないサークルの使用例。ケガをさせない、という愛情からの策が、1~2時間でもここに居るらしい。だとしたらハイハイや好奇心はかなり制限され、心身の発達は阻害されます。(囲うならばテレビボードなどの避けたい危険の方ですよ？【自分がされて嫌なことは子どもにもしない】を当てはめて想像してみましょう)

便利グッズが即、悪いものと言うわけではないので、使い方次第だと思います。例えば、私は、年子の子育て中、座卓でのんびり食事する2才の長女と、つたい歩きで迫る9か月の次女(結構な修羅場ですww)という状況下、次女には「歩行器」に入れてもらって長女の食事を死守しておりました。自由を奪うけど「この20分だけ」許して〜と、必要最低限を意識していました。けどこれは、歩行器に放り込まればなしでまともな歩行が出来なくなる、という危険性を知っていたから抑えられた悪影響だと思っています。

と、いうことは・・・知らないと怖い(;°A°)・・・ですよ？



「どうして教えてくれないの？」と思うかもしれませんが、不安を感じている保育士さん・助産師さん・保健師さんが口を揃えたように「まだ信頼関係ができてないママに“やめた方がいい”とは言いにくい」と漏らします。「自分の子育てが批判されると誤解されてシャットアウトされてしまったら、今後のサポートが出来ない」と。・・・わかる～(´;ω;`)

どんな言い方なら相手が嫌な気持ちにならず、良い意図が伝わるか・・・高度なスキルが必要🧠で難しい。けど、尻込みして時間が過ぎて・・・その情報を誰がいつ届けるの??・・・1秒でも早くその親子が幸せに!と・・・コロナ禍で「ご自由にお取りください」がストップしていた『ぴ〜ちく通信』を、単発でも書いてみようか、と思った次第で・・・ああ～世話焼きおばちゃん(˘^˘A おもちゃ屋だからの発信♥

実はね・・・子育てが「当たり前」ではなくなっているのは日本だけではないようで WHO 世界保健機関が 2019 年 4 月に【乳幼児の過ごし方】の指針を発表していました。世界にコロナ感染が広がったのは同じ年の 12 月。

つまり、世界的に子どもの育ちが危惧されていたにもかかわらず、
コロナでその歯止めがかからないどころか余計に苦しくなった・・・と言ってもいいのでしょう。



右上の QR コードから、小児の健康な成長に関する WHO のガイドライン抜粋をご覧ください。(3分で読めます)

サイトが開くと英文です。翻訳機能を使用してくださいね

★なんと！**生後2か月～ハイハイを始めるころまでの赤ちゃんには、一日にトータル30分くらいの【うつ伏せ】の姿勢を取らせること！とあるのです！** そんな小さなころからうつ伏せにしているの？と、驚かれるかもですが、



もちろん、いきなり黙ってうつ伏せの姿勢にするのではなく

「うつ伏せするよ～、♪ごろんごろんごろん」と、声をかけながら首にも手を添えてゆっくりとうつ伏せにします。はじめは首がぐらんぐらん(˘^˘A

けどね、昔の日本人は♪ごろんごろんごろん♪(これ、メロディはないけどわらべうたです)と、赤ちゃんを寝ころがし、腹筋背筋を鍛えてやるものだ、と普通にやっていたことなのです。

(柔らかすぎるマット等の上は口鼻をふさぐ可能性があるので要注意)

必ず大人が傍にいて「おお！強い強い！頭がぐ〜っと上げられるねえ！」「前にキレイな色のおもちゃが見えたね？そうそう、もう一回頭上げてごらん！カチャカチャっていい音もするよ」と声をかけて共感しつつ、「は～い、お疲れさま」と数分で仰向きに戻してあげるのが鉄則。

「しんどいけれど見たいものがあるから自分の意思で頭を上げる」という主体性の初めの一歩です。このうつ伏せ運動を WHO は一日にトータル30分ほどさせて、首や背中周りの筋肉の発達を促すこと推奨しているのです。<写真はスクイッシュ税込4180円を見たくて頭を上げている2か月の赤ちゃん。この玩具はベチャンコにつぶれます>

また、5才頃までは抱っこ紐やベビーカー・固定的なイスなどで**一度に1時間以上同じ姿勢を取らせる(そのつもりはないのに拘束状態)のは危険！と注意喚起**。例えば抱っこ紐で肩が反ったような姿勢が長く続けば、首や背中周りの筋肉の発達が妨げられるからです。体幹の育つ大事な時間も奪われます。また、【しがみつく】行動は愛着形成とも関係があります。抱っこ紐に完全に任せることを避け、可能な範囲で手を添えてお互いが抱きついているような**姿勢を取ることで、子どもとの絆も育まれる・・・**と知ると意識できますね。

・・・「私はそんなこと知らなかった」と自分を責めないでくださいね。コアラごっこ(しがみつつき)や、ワニさん競争(うつ伏せ姿勢)など、補える手立ては日常の【遊び】の中にたくさんあります ♥Good Luck♥

